

## 礼拝のしおり (2022年6月号)

～主の御前に一つにされて～

わたしが主、ほかにはいない。  
わたしをおいて神はない。  
わたしはあなたに力を与えたが  
あなたは知らなかった。  
(イザヤ書 45 章 5 節)

主の聖名を讃美いたします。今年も早6月となり、梅雨の時期となりました。高井戸教会の花壇や牧師館の庭にも、紫陽花がきれいに咲いています。

高井戸教会の敷地は東西に長く、会堂や牧師館の南側に、木々も植えられている、それなりの広さの庭があります。附属幼稚園である角笛幼稚園の園庭でもあり、鉄棒、すべり台、ジャングルジム、登り棒といった遊具も置かれています。

近年、公園、また学校や幼児施設等において、ビオトープ（生き物が自然な状態で生息している空間）作りが行われていることを耳にするようになりました。角笛幼稚園の園庭である高井戸教会の庭には、既にある程度の樹木や草花が植えられているのですが、園児であるお子さんたちが、自然の生き物等に触れられるような園庭の改良が行えないか、昨年度より検討を始めました。幸い、杉並区におけるさまざまな場所でのビオトープ作りに関わっておられる方々に、角笛幼稚園の園庭を見ていただく機会が与えられました。その結果、近隣には、浴風会の敷地等に豊かな自然もあり、また神田川も流れていて、角笛幼稚園の園庭は、生き物たちにとっての一つの中継地点になる可能性も持っていること、なお改良を加えれば、より豊かな自然の生き物に触れられる場所になるであろうとのアドバイスをいただきました。検討を重ね、牧師館の庭にある池をメダカ等の生き物が棲める池として再生したり、園庭に小鳥や蝶がやってくる草木を植える等、園庭の改良を実施することとし、現在その作業が進められています。

そのような経緯もあり、ここしばらく園庭の改良について考えることになったためでしょう。子どもの頃に抱いていた自然の事物への関心が、私自身の中で高まっているのを感じています。身近なところに生えている木々や草花、鳥や虫たちを眺める機会が増えました。

しかし、そのような中で、また気づかされたことがあります。園庭にきれいな花が咲き、初めて目にする花だと思って喜んでいたところ、実は毎年この時期、その場所に咲いている花であると知ったことです。高井戸教会の牧師館に住みながら、最も身近なところにある幼稚園の園庭、高井戸教会の庭に、毎年ひとつの植物が見事な花を咲かせていても、気づかぬままその場所を通り過ぎていただけであった。一つの小さな花のことですが、それは何か、神から大きな愛と恵みを向けられていながら、心を向けることなく過ごしている自分の姿を指し示されているような思いになりました。

新型コロナウイルスの影響下で、既に2年数か月の時を歩んできました。その間、日々の歩みを根底から支えられるようにして、神の御力と恵みによって守られてきた私たちではなかったか。真実な意味で、どれほどそのことに心向けてきた自分であったか。私にとって、身近なところに咲いた一つの花の存在によって、教えられるような出来事でした。

「わたしが主、ほかにはいない。わたしをおいて神はない。わたしはあなたに力を与えたがあなたは知らなかった」。



梅雨空の下、園庭の紫陽花が咲き始めました。

◎6月19日～7月10日の主日礼拝の予定

礼拝の予定	聖書・説教題	交読文	讃美歌 21
6月19日(日)	詩編 27 編 7～14 節 マタイによる福音書 12 章 9～14 節 「手を伸ばしてみよう」高橋幸神学生	詩編 118 編 1～16 節	1, 141, 493, 24
6月26日(日)	詩編 88 編 14～19 節 マタイによる福音書 27 章 45～56 節 「十字架上の叫び」	詩編 138 編	8, 474, 280, 28
7月3日(日)	詩編 23 編 4 節 マタイによる福音書 27 章 57～66 節 「墓に葬られた主イエス」	詩編 86 編	4, 475, 81, 26
7月10日(日)	詩編 16 編 7～11 節 マタイによる福音書 28 章 1～15 節 「主イエスをどこに見出すのか」	詩編 121 編	14, 462, 461, 27

### ☆6月19日～7月10日の主日礼拝、その他について（お読みください）

新型コロナウイルスの感染防止を考慮して、6月19日以降の高井戸教会の主日礼拝等について、以下にご案内いたします。ただし、感染状況が変わり次第、以下と違う対応になる可能性があります。その点をご了承ください。なお、変更する場合は、高井戸教会の週報やホームページでお伝えするようにいたします。

#### ◎主日礼拝について

主日の礼拝については、毎週日曜日、第一礼拝(午前9時30分開始)と第二礼拝(午前11時開始)という2回の礼拝を行う形を継続しています。どうぞ、どなたでも第一礼拝または第二礼拝にご出席ください。ただ、感染に不安のある方、体調の優れない方は無理をなさらず、ご自宅で礼拝をお捧げください。

毎月第1日曜日の第一礼拝ならびに第二礼拝において、聖餐式を行います(安全を期して、市販の聖餐用の個包装のウエハースとぶどう液を用います)。

毎主日の第二礼拝のライブ配信(礼拝の生中継)も続けて行っていますので、ご自宅において動画を視聴しながら礼拝を捧げることができます。ライブ配信を視聴したい方は、高井戸教会までご連絡ください(TEL 03-3333-2465)。

なお、礼拝説教の動画のアップロード、『礼拝のしおり』の発行も続けています。どうぞご利用ください。

#### ◎子どもの教会について

幼小科は、毎日曜日午前8時30分より、礼拝堂において礼拝を捧げています。ただし、分級は行いません。

中高科は、毎日曜日午前9時30分より高井戸教会2階会議室において行っています。

#### ◎オンライン祈禱会について

Zoom というアプリを用いてのオンライン祈禱会を、毎月1回(第1日曜日の午後5時より)行っています。

今現在、礼拝のライブ配信ならびに説教動画のメールを毎週受け取っておられる方は、開催日の前日までに案内のメールをお送りしますが、それ以外の方で参加を希望される方は、七條牧師までご連絡ください。また、「オンライン祈禱会」と称していますが、高井戸教会にいらしての参加も可能です。互いに距離を保ち、換気をした部屋で、マスクを着けた形で参加していただきます。準備の関係上、教会にいらっしゃる方は事前に七條牧師までご連絡ください。

#### ◎求道者会について

長らく休止しておりました求道者会を、6月より再開します。ただし、従来とは異なり、原則として毎月第4主日の第二礼拝後、12時20分～40分(約20分間)、礼拝堂において行います。神代真砂実著『改めて学ぶ、教団信仰告白』(東神大パンフレット)をテキストとして用います。初回は、6月26日です。どなたでもどうぞご参加ください。

**「外に出て、激しく泣いた」**（マタイによる福音書 26 章 69～75 節） 牧師 七條真明

「そして外に出て、激しく泣いた」と、この箇所終わりの 75 節に記されます。主イエスの弟子の一人であるペトロが涙を流して泣いている。その姿が深く私たちの心に残る箇所です。ペトロは、ガリラヤ湖の漁師として生きてきた人でした。魚がかかった網を引き上げるのにも耐え得るような、しっかりとした体つきをした人であったのではないかと想像されます。しかし、そのペトロが、涙を流して泣いている。しかも「激しく泣いた」と記されるように、号泣した。なぜ、彼は涙を流し、激しく泣くこととなったのでしょうか。

主イエスは、弟子の一人であるイスカリオテのユダの裏切りによって捕らえられ、大祭司カイアファの屋敷に連れて行かれました。ユダヤの人々の議会、最高法院において裁かれるためです。主イエスの弟子たちは皆、主を見捨てて逃げてしまいました。弟子たちがどこへ行ったのか、聖書にはほとんど記されてはおりません。しかし、大祭司の屋敷に、ペトロがやってきていたことをマタイ福音書は私たちに伝えます。「ペトロは遠く離れてイエスに従い、大祭司の屋敷の中庭まで行き、事の成り行きを見ようと、中に入って、下役たちと一緒に座っていた」（26 章 58 節）。ペトロもまた、主イエスが捕らえられた後、その場から一時的に逃げ去ったのでしょうか。しかし、主イエスはどこに連れて行かれるのか、遠巻きに見ながら、主イエスを引いて行く人々の後をついていったのだと思います。

一体、ほかの仲間はどこへ行ったんだ。散り散りばらばらに逃げて行った他の弟子たちの姿は、今やどこにも見えない。しかし、そこで、自分だけが、主イエスの行かれるところになお従って、大祭司の屋敷にやってきたということ覚えて、ペトロは、身の危険を感じながらも、どこか自分を誇るような思いさえ心のうちに抱いていたのではなかったでしょうか。

少し前に、主イエスのおっしゃった言葉に反応して、「たとえ、みんながあなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません」と主に向かって豪語したペトロでした。ペトロは、まさにその言葉のとおり、他の弟子たちが逃げ去ったこの時もまた、捕らえられた主イエスを追って、自分だけが主イエスに従っていると思っていたのではなかったかと思うのです。けれども、福音書は、その時のペトロの姿を的確に言い表していることに気づかされるのです。「ペトロは遠く離れてイエスに従い」。

「遠く離れて」。厳しい状況が生じているその中で、自分一人だけは主イエスに従っている。そう思っていたペトロは、「遠く離れて」いた。主イエスから遠く離れて。ペトロという弟子、彼もまた、他の弟子たちと違うところはない。他の弟子たちと同じように、主イエスの前から逃げ去った弟子の一人であることを、福音書は明らかにするのです。そして、まさに、主イエスが連れて来られていた大祭司の屋敷に、遠く離れて従ってきていた、いや従ってきていたはずなのに、既に遠く離れていた弟子ペトロの決定的な主イエスからの離反を明らかにする出来事が、この大祭司の屋敷の中庭において起こるのです。マタイ福音書の第 26 章 69 節以下が明らかにしている出来事です。

ペトロは、主イエスが連れて来られた大祭司の屋敷の中庭で、事の成り行きを見ようと、下役たちと一緒に座っていました。大祭司の屋敷で働く者の一人のようにして、彼らに混じって座っていたということでしょう。しかし、大祭司に仕える一人の女中が、ペトロの顔を見て、気づいて言うのです。「あなたもガリラヤのイエスと一緒にいた」。ペトロは、その時、どれほど驚き、慌てふためいたことでしょうか。彼は、即座に、自分に対するその女中の指摘を打ち消します。「何のことを言っているのか、わたしには分からない」。

事は一回だけで終わりませんでした。さらに、ほかの女中に同じことを指摘され、その後も、そこにいた人々から、主イエスの仲間だとの指摘を受けるのです。ペトロは、「そんな人は知らない」と呪いの言葉さえ口にしながら、イエスなど知らない、自分とは何の関係もない、と主イエスとの関わりを繰り返し否定することになりました。

ペトロが、三度にわたって主イエスを否定した直後のことが、74 節の終わりにこう記されます。「するとすぐ、鶏が鳴いた」。夜が明けるしるしのようにして、鶏が鳴く。毎日のように繰り返される日常的な光景であったと思います。しかし、その時のペトロにとっては違いました。ペトロは、思わず屋敷の外に出て、激しく泣き出した。なぜであったか。その理由がこう記されます。「ペトロは、『鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう』と言われたイエスの言葉を思い出した」。主イエスは、御自身を否定するペトロのことを知っておられました。ペトロは、自分以上にこの自分のことを、主を否定する自らの罪を、その弱さを知り尽くしておられた主イエスがおられたことを知りました。そのようなペトロに、主は「わたしに従いなさい」と呼びかけ、御自身に従わせておられた。そのことが痛いほどに、ペトロは分かって、激しく泣いたのです。ペトロのためにも、十字架に向かっておられた主イエスがおられました。